

丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和5年12月発行

人と自然とつながるオール丹那の共有体験 「自給自足 DAY」 校長 土屋 貴俊

毎年子供たちには、自給自足 DAY に向けて自然界（気候・害虫）との調和と共存が求められます。さつまいもについては、以前猪に全部食べられてしまった経験を生かして、東部農協青年部の皆さんが畑を電柵で囲んでくれています。葉物については農薬を一切使用しないため、虫がついていないか毎朝子供たちが葉を一枚ずつめくって確認し、一匹一匹取り除いてきました。



また、今夏は例年以上の猛暑となったために、夏に蒔いた作物の芽が溶けてしまうなど近隣の農家さんは大変ご苦労されました。この影響で秋には、スーパーマーケット等で売られていた野菜も通常の2倍程に値上がりしました。

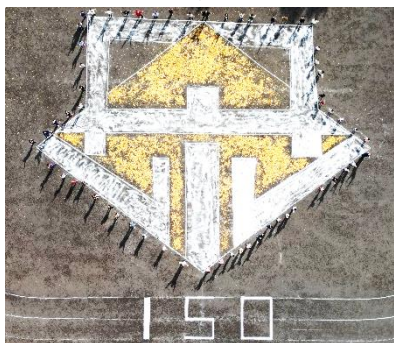
本校でも秋収穫のジャガイモが暑さで駄目になってしまったために、夏休み明けに保護者から種芋をわけていただき植え直しました。そのため自給自足の前日まで、小指の爪ほどの大きさしか育っていませんでした。残念ですが、これは大きくなってから給食で使ってもらうことにしました。

栽培活動は計画通りにならないことも多く、辛抱強く見守り、予想外の事態にどう対処するかを考えるよい機会となります。試行錯誤の中で失敗に終わったとしても、どこが悪かったのかを自分なりに分析し、次の活動や挑戦につなげることができます。まさに「失敗は、成功のもと」です。すべてが自分の思い通りにいくことはないことを体験します。さらに栽培活動を通して人とのかかわりも生まれます。今回も、野菜博士の神尾さん米作りの神尾さん、東部農協青年部の皆さん、保護者の皆さんからたくさん支援や助言をもらいました。また、水くれや草取り、虫退治のために友達と協働の場も生まれました。



栽培活動を通して周りの自然に注目できる子供が増えたためか、「丹那小学校は木が多く枯れ葉が毎年多く出るので、自分たちでなんとかしたい」という6年生の意見から、

11月から毎朝5・6年生を中心に枯れ葉掃き始め、それが下学年にもつながり、今はたくさんの子が参加しています。自分たちの学校は自分たちの手でという思いが感じられます。これが他の生活面にも広がり、よい伝統として引き継いでいけることを願っています。



左の校章の写真は、6年生の算数「拡大図と縮図」の学習のまとめとして運動場に描いたものです。保護者の協力を得て全校でドローンからの撮影を行いました。校章の黄色い部分を銀杏の葉で敷き詰めるアイデアも生まれました。